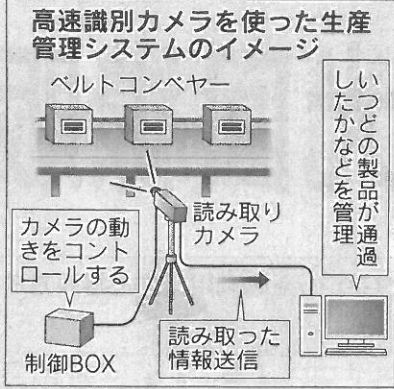
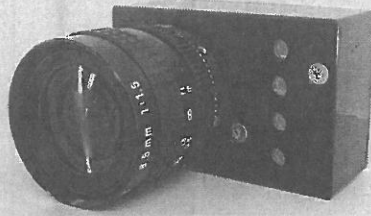


カメラで製品高速識別

画像認識技術を開発するビーコア(東京・千代田、水野廉郎社長)は色をもとに高速でモノを識別する業務用カメラを開発した。識別対象に色を使った新型バーコードを貼ると、最速2万分の1秒で読み取って対象物を識別できる。工場のベルトコンベヤーに取り入れるなど生産現場での製品管理向けの需要を見込む。



ビーコア 生産現場向け



高速で3色バーコードを読み取る専用カメラ

2万分の1秒でバーコード認識

バーコードを読み取るカメラと、操作内容に応じてカメラに撮影間隔などの指示を出す制御装置で構成する。

カメラがバーコードを読み取る速度は最速2万分の1秒で、柔軟に設定できる。4つの発光ダイオード(LED)を採用し、バーコードを照らす。

大きさはレンズ交換タイプのもので幅5センチ、高さ7・5センチ、奥行き3センチ。

同社が開発した新型バーコード「カラービットコード」を読み取る。バーコードは赤、青、緑の3つの色だけで構成するバーを帯状に並べ、色の変化点を読み取って対象

物を認識する仕組み。色の順番をもとに認識するため、高速での識別が可能。シール状になっており、製品が入った箱に簡単に貼り付けられる。

いつ、どの製品がコンベヤーを通ったかを管理するシステムなどへの応用を狙う。読み取り速度が1万分の1秒の場合、毎分500枚の速度で動く製品も識別できるといふ。すでに受注活動を始めた。価格は1台のカメラとその他初期導入費用など含め200万円程度

から。初年度で10社からの採用を目指す。

同社は3色バーコードを0・1秒で読み取るカメラを開発し、ヒトの入

退室管理システムなどに採用が始まっている。より高速で読み取るカメラの開発で生産現場への用途拡大を狙う。